

神の国を求め

(マタイ6・25～34)

一、思い煩わない

イエス・キリストは、天地万物を造られた神が人となって生まれられたお方です。神であられるがゆえにできた御業です。何のために人として生まれられたのでしょうか。神と人との仲保者であり、救い主となられるためです。イエス・キリストを救い主として信じますと、私たちは救われ、神との交わりが始まります。それは、弟子たちがつくった教えではありません。聖書は語っています。〈神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。〉(ヨハネ3・16)。

このお方、すなわち救い主イエス・キリストを信じ受け入れますと「思い煩い」が無くなります。それが今日の聖書箇所を取り扱われていることです。マタイの福音書6章25節をご覧ください。私たちが使っている新改訳聖書には「心配」と書かれています。私は口語訳聖書の「思いわずらい」が好きです。「思いわずらうな」と聞くと、心にストンと入って来るからです。ちなみに、新共同訳は「思い悩むな」で、聖書協会共同訳は「思い煩うな」です。元の言葉は

「メリムナオー」で、「分離する、分裂する」の意味です。その端的な例が、24節で語られています。神を信じているのだけれども、神が喜ばれないものにも惹かれていて、という状態です。それは非常に苦しい状況であると言えます。言い換えるなら、心が定まらない状況です。

マタイの福音書が発行された時点においても、「キリスト信者として入信したら苦労するぞ。まともな仕事には就けないぞ。それまでの人間関係が壊れるぞ。親戚関係も壊れるぞ。生活も苦しくなるぞ」という現実があったはずで、そればかりではありません。命を落としても、どこにも訴えることのできないリスクがあった時代です。ですが、それほどの不利な状況が待ち受けているにもかかわらず、教会員が増えて行きました。同時に、信仰から墜ちて行った人もいたはずで、命が危険に晒される点を除けば、私たちにも当てはまります。

イエス・キリストを信じるとは、「天の御国は、畑に隠された宝のようなものです。人はその宝を見つげると、それを隠しておいて、大喜びで帰り、持ち物を全部売り払ってその畑を買いいます」(マタイ13・44)と、主イエスご自身がおっしゃっているとおりのもので、ですが、神であり、罪人の救い主であるイエス・キリストを見上げている限りの

話でありまして、ひと度神に背を向けるなら、思い煩いは以前にも増して大きくなります。

二、神を知るとは

天地万物を造られた神は、善いお方です。26節をご覧ください。主イエスは、空の鳥に目を向けられました。鳥たちが生きて行くに必要な食糧は、自然に生えている植物の実を始め、人が栽培している穀物にある、そのようにして天の父が鳥たちを養っている、とおっしゃるのです。あるいは、28節です。

なぜ、野のゆりが美しいのか、天の父がそのようななさったからです。ならば、天の神が私たちに善いことをしてくださらないわけがありません。語っておられます。さらには、30節をご覧ください。そういうわけで、イエス・キリストを信じると言いながら、神に信頼していないなら、それは信仰者特有の「罪」です。だからと言って、救いが取り去られるわけではありません。ですが、世にあって御国も御力を知らないまま生涯を送るといって、「残念な人たち」になつてしまいます。

三、神の国と神の義を

33節をご覧ください。神の国を求めるとはどういうことでしょうか。神の義を求めるとはどういうことでしょうか。順序を逆に、まず「神の義を求

める」について考えたいと思います。神が喜ばれることは何でしょうか。すなわち、父・子・聖霊なる神が喜ばれることは何だと思われませんか。イエス・キリストを信じている方は、説明されるまでもないことです。聖霊なる神が、一人ひとりの心の板に書き記しているはずで、旧約の預言者エレミヤが語った言葉が思い起こされます(エレミヤ31・33)。神の御意思が「人の心に書き記される時代が来る」と、エレミヤは預言しました。新約の時代になり、聖霊なる神が降られることにより実現しました。

イエス・キリストを信じますと、聖霊なる神が心に住まわれます。そのお方の導きに従い、ゆだねてください。それが「神の義を求め」ことになります。次に、「神の国を求め」についてです。神の国とは神が統治されることです。これは「神の義を求め」こととながっています。主イエスの思いが自分の思いと願うようになると、そのように願っているのは聖霊なる神の働きによるものです。その人は神のコントロールの下に置かれ、罪の性質から解放され続け、主に仕えることが喜びとなります。すなわち、神の国に生かされていきます。そういう人に、天の父は良いものをもたらしてください。〈これらのもの〉、すなわち衣食住について思い煩う必要はありません。それらは、結果としてもたらされるからです。